

## 演劇はどこにある？

この秋、松本市に新生する演劇の学校—  
まつもと市民芸術館〈まつもと演劇工場 NEXT〉。  
興奮を抑えることなく伝えよう。  
「劇場」があつて、「劇団」があつて、そして「学校」がある。  
「学ぶ、創る、伝える、観る」のすべてに関わりながら、  
演劇人・芸術家が育つ環境が整うことになる。  
初体験から劇場レパトリーの創造までが一貫することは、  
学ぶ人間にとっても、演劇活動にとっても、  
あるいはそれを支える街にとっても、  
これほど幸福で理想的なことはない。

いま演劇を学ぼうとするひとたちは、  
近未来の舞台表現をどうやって学ぶのだろう？  
オーディションの準備に追われ、心碎かれる日常のなかで、  
表現の将来を容易くイメージできるとは思いにくい。  
何年後か、何十年後かの演劇表現を学ぶ場に必要なのは、  
ひとつの確立されたシステムではないだろう。  
現在の演劇に方法や手本のすべてがあるとも限らない。  
時間割やカリキュラムでさえないかもしれない。  
演劇は他者と関わり、世界とつながっていく芸術だから、  
変化と変容は免れない。  
変わり続けていくだろう、なにもかも。  
確かに言えることがあるとすれば、  
伝え合う人間たちとともに響かせ合える、  
自分の発想、自分の言葉、自分の声、自分の身体を持つことだ。

串田和美芸術監督をはじめ、まつもと市民芸術館との  
創造に関わりながら演劇を学ぶひとりとして、  
演劇を学ぼうとするひとに伝えたい—  
現代を生きる演劇人といっしょに、  
その先にある表現を探そう。  
新しくて力強い、そして信じられる表現を追いかけよう。

演劇に出会いに、松本へ。